

## 茨城クラブにて、茨城 YMCA スタッフの方々を対象とした研修

### 「気になる子どもたちの理解と配慮」を実施

今回、茨城クラブでは、7月6日に所沢クラブより大澤和子様をお招きしまして、主に茨城YMCAのスタッフの方々を対象とした研修を実施いたしました。

研修内容は以下の通りです。

◆講演：現在の学童保育が抱える問題コンカイ点やADHDが疑われる子への対処について

◆実習：

・ソーシャルスキルトレーニング「ちょこっとチャット」体験

・「ロールプレイング」体験

配役（生徒と先生）を決め、台本のセリフの空欄を考えて演じる。

研修終了後にYMCAスタッフから寄せられた感想をYMCAより共有していただきました。研修の内容がより伝わるものと考えましたので、別項にて無記名で転記いたします。どうぞご覧ください。

今年度、茨城クラブでは主題に掲げております「ワイズはYMCAの「お兄ちゃん」へ！」をより実効性のある取り組みにつなげるべく、さまざまな新企画を考えております。今後も、YMCAスタッフや学生リーダーとの距離を縮めていきたいと考えております。

<写真：研修の様子/終了後の懇親会>



### 7月例会/研修会 茨城YMCAスタッフの感想

☆ 小学校現場での実際の話がとても心に残りました。黒板をきれいにした男の子、しからないで指で合図しながら話を続ける、しっかりした女子をサポートにして頼るなど、大澤さんの指導一つ一つがとても勉強になったし、その指導で救われた子どもたちがたくさんいたのだと思いました。また、私も実際に子どもを叱っている時に、ふと我に返るときがあり「愛」をもって子どもにかかわっているのか不安になるときがあるので、子どもたちの居場所となるような学童を作っていきたいと思います。気になる子、ADHDの子にしっかりと向き合って、一つ一つの声掛けを大事にしていきます。どんな子であってもパステルカラーのように、いろいろな工夫で輝けるようにしてあげたいです。

★ 共感・受容タイプの対応を具体的に、ハウツーも含めて話してもらえて、とてもよかったです。また叱ること、注意することが苦手な指導員も多いので、そこも重要だという話もしてもらえてよかったです。「子どもへのまなざし」「ちょこっとチャット」覚えておきます。受容的な対応かどうか考えるようにすること。今回参加できなかった方にも、伝わるように考えていく。

☆ 共感的タイプ、受容的タイプの先生 日ごろから「どうしてそんなことをしてしまったか?」「どうしてそんなことをされたか」を双方に聞いて解決できるように関わってきたつもりだが、どうしても危険な時、叱責タイプで起こってしまう時もある。今日、ロールプレイングをやってみて、初めて子供の気持ちがわかった。子どもの気持ちも体験したので、その子に合った対応（ほめる、話し方）をして寄り添いたい。パステルゾーンの子との関りが難しい時もあり、逃げていた時もあったので正面から向き合い、共に成長したい。

★ 問題行動をとる児童たちに、具体的にどのような対処をするのかの例をいくつか学べたのはよかった。横並びの手段行動をとれるような子どもに育てるのが良いのか、集団の中で個性をどうのばしてゆくか課題と感じた。今後も、このような研修会に参加して、学んでいきたい。

☆ さっそく、何回もくどくど叱責せず、注意は短く具体的に、感情的に叱らず、本人の行動に気が付くように注意す

る。注意するときはクラスの中ではなく個人的に勉強になりました。子どもたちにとって、学童が安全で居心地の良い空間になるようにしたいと思います。

★ 「愛」が一番重要だという考え方には、クリスチャンとして非常に共感できた。しかし、「伝わらなければ意味がない」と仰られたのは真実で、ノウハウをもっと意識する必要性を改めて感じた。福祉的な学びを思い出してお、「受容」「共感」、視覚的に訴えることなどを実現していきたい。ただし「注意する」ことも必要で、いかに短く注意できるかについて、よく考えておくべきだと感じた。〇〇センターの弱いところに「視覚的配慮」があることを常々感じており、これを機に具体的に取っていききたい。また、私の場合は「注意すること」をついついないがしろにしがちなので、こちら意識してこれからの保育に臨んで身に付けていこうと感じた。

☆ 「パステルゾーンの子ども」というワードに少しときめいた。色はあるのにグレーと表現される子どもたちにも配慮された素晴らしい言葉だと思った。高学年や、パステルの子、保護者まで通じる接し方を教えてもらったことで、今後の仕事に生かしていけると感じました。叱ること、注意することが多い私ですが、受容することや認めることを忘れずに保育に当たりたいと思う。

★ 大澤さんの人柄がとてもよく、話し方もわかりやすく、頭にストンと落ちてきた。今回特に、「受容して話を聞く」がとても心に残った。今まで、子どもの話をこちらが必要以上に評価や解釈を加えてしまう場面があった。自分は、子どもたちに何か注意をしなければいけない場面の時にどうしても叱るところから入ってしまったので、質問を何回も繰り返す、その子ども自身の「気持ち」をちゃんと引き出すやり方を身に付けていこうと感じた。

☆ 子どもの話をまずしっかりと聞くことは大切なんだと再認識させられました。一人遊びの子や、高学年の子もその状態が本人が望んで一人なのか、そうでないのかによって、問題が変化するなども感じた。ロールプレイングは、一人ではできないものなので、行う機会を持つことができよかった。一人一人の子どもには、個性があり、同じ形でも会話が進むとは限らないので、今後も職員同士、また保護者も含めて、情報を共有して、より良い成長につなげるように、対応できるように努めていきたい。保護者とのかわりにおいて、もう少し、話をする時間を設けて、関係を作っていけたらよいなと思った。

★ どんなタイプの子どもであっても、子どもをほめて認めることが最大の支援であることが分かった。特別配慮の必要な子についてのほかに、一人遊びの子や高学年の子に対する支援についても、もう少し深く説明をしてほしいなと思う。ちょこっとチャットは保護者会で使用してみたい。今までと同様に、子どもをほめること、認めること、一緒に考えていることを継続していきたい。また、多種多様な子どもが児童クラブに来ることが楽しくなるように環境を整えていきたい。

☆ ADHD・気になる子どもたちに対する支援の在り方の講演がおきき出来てとても勉強になりました。ロールプレイングが体験できて、お互いの気持ちを感じることができてよかったです。この研修を働きの中で取り入れていけるように考えながら、保育に当たりたい。

★ 子どもをほめることばとしての「さしすせそ」が役立ちそうです。時間が少ない中で、大切な言葉「Key ward」を学ぶことができました。学んだことを実践で生かせるように、支援する必要があると感じています。

☆ 共感の重要性が良く理解できました。叱責される児童の立場に立ったロールプレイを行ったことで、その子の心情がある程度実感でき良かった。集団行動がとれない子に落後者の烙印を押し付けてしまう現在の社会傾向を再考するよい機会になった。

★ 「愛」のある口先でないほめ方。私たちにもできる何かがある。やることはやる！

☆ パステルゾーン (キラキラした言葉) 素敵な言葉だと思いました。さしすせそのほめ言葉を使っていきたいです。

★ 頭の中で分かっていることでも、なかなか現場で直面した時にすべて研修通りに支援指導できないことがあった。今日の研修も参加でき嬉しいです。この研修では、日々子どもとかかわる毎日に、たくさん使っていこうと思いました。思いましたではなく使います。子どもたちの笑顔が何よりの活力になり、心を込めた「愛」のある支援、指導員になりたいです。とても勇気づけられました。とても素晴らしい研修をありがとうございました。これから、この先に直面するとき、声かけ、注意は短く、心ある愛のあるほめ方、等々、信頼関係を築いていけるように努力したい。

☆ ADHDであろうとなかろうと、子どもたちは一緒に何より自信をつけるための成功体験を増やすことが大切だなと思いました。「僕だってできる」など自分の力で解決した喜びを感じれる。そして好ましい行動はすぐほめることが大切だなと思いました。コミュニケーションをたくさん取ろうと思いました。

★ ”パステルゾーン”は印象が変わる言葉でいいなあとと思った。”グレー”だとマイナスなイメージがどうしてもついてしまう気がしていたので少しでもキラキラした印象が広まってほしい。また、対応がわかっている現場で思うようにできないことが多く、今日研修を受けながら「あの時の声掛けはダメだったな」と振り返ることが多かった。今日ここで気づけたことが良かった。「あの声掛けは、こうすればもっと良くなる」と思うこともあったので、実践できるようにしたい。パステルゾーンの子だけではなく、周りの子も「どうしてあの子ばかり」という気持ちを持つ子も少なくない。どうかかわりを持ち、理解をしていく意識していきたい。

☆ 茨城YMCAに入り、子どもたちの対応に悩んでいた時期でしたので、とても参考になりました。様々な子への言葉がけでつい叱責してしまうことがあるので、今後、改善していきたいと思います。またロールプレイを通して叱責された子供の気持ちを理解することができました。子どもへのほめ方「さしすせそ」さっそく使っていきたいと思えます。

**(ワイズメンバーより) 彼ら彼女らのみずみずしい感受性から放たれる言葉に、私も力をもらいました。この感受性、人間性こそがYMCAのかけがえのない無形資産だと思います。みなさんもぜひその言葉に触れてみてください。**